

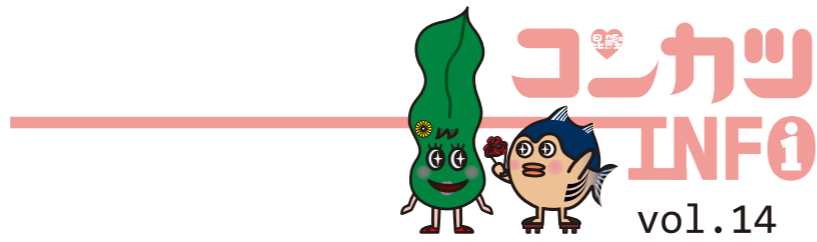


出汁之介の わっかない通信

野鳥の楽園「大沼」

稚内の声問地区にある大沼には、毎年10月頃にたくさんの白鳥が越冬の休憩地として集まってくるんだ。大沼は、以前は渡り鳥の通過地点で、白鳥が来ることはなかったんだ。でも、地元漁師が息子の「大沼で大好きな白鳥を見たい」の一言に「呼んでやる」と意気込み、白鳥の模型を浮かべたり鳴き声をテープで流したりと頑張ったおかげで、今では毎年春と秋に確実に白鳥が飛んでくるようになったんだよ。すごい話でしょ？多いときには1日に3千羽もの白鳥が飛んでくるんだ。白鳥が旅立つ頃には稚内でも初雪がちらついて、冬が近づいてくる頃だね。

枕崎のみんなも来ないば、大沼！



くちんぱい夏祭り 大阪で南北友好都市が味の競演

関西の人気番組「くちんぱい夏祭り」(本県でも放送中)が企画した夏祭りが7月31日から8月6日の期間、大阪の梅田駅近くにある毎日放送ビルで開催されました。友好都市である本市と稚内市の水産加工品など、特産品の販売やPRを行うブースが登場。本市コンカツプロジェクトから「コンカツカレー」や「本釣かつお角煮」などのコンカツ商品を販売しました。会場は連日多くの人出でにぎわい、来場者からは「南



コンカツほくほくじゃが天

北の味が一度に味わえる」と好評でした。
「コンカツ」新商品情報
◎コンカツほくほくじゃが天
 北海道産じゃがいも、枕崎鯉節、利尻昆布を使った風味豊かなさつま揚げ
 販売元・取扱店 松野下蒲鉾 TEL 7-2-2328

問合せ コンカツプロジェクト協議会事務局(水産商工課内) TEL72-1111・内線421



You(あなた)とI(私)が互いに支え合い、尊重しながらともに歩んでいける社会をめざすため、男女共同参画について考えるコーナーです。

■問合せ 企画調整課政策推進係 TEL72-1111(内線219)

昨年発生した熊本地震。地震による家屋の倒壊などで多くの人が避難所や車中での生活を送りました。災害が発生したときに必要な支援は、男性・女性・子ども・高齢者・障害者など一人ひとりに「違い」があります。今回は、平成23年の東日本大震災や熊本地震で明らかになった実態や課題から「男女共同参画の視点に立った防災・復興への取組」について考えます。

東日本大震災の時の避難所では、育児や介護に必要な物資の不足や、授乳室や女性用更衣室が設置されなかったことなどが課題でした。また、「女性」という理由で食事の準備や清掃等を割り振られたなどの実態も明らかになりました。この背景には「男性は仕事・女性は家庭」といった性別による固定的な役割分担意識や、災害や防災の在り方について考える場に参加する人のほとんどが男性だったことが原因と考えられています。

これらを踏まえ、平成23年と平成24年に国の「防災基本計画」の内容が見直され、避難所運営での女性や子育て家庭等への配慮、復旧・復興の場への女性の参画の推進などが新たに盛り込まれました。熊本地震では、東日本大震災での経験等を踏まえ、男女別のトイレや授乳室の設置、避難所運営での女性の参画など、東日本大震災での課題を生かせることが国の調査で分かりました。しかし、一部の避難所では、避難者の状況を把握

しきれず、配慮が十分にできていなかったことも報告されています。

■本市の取組
 本市では、平成25年に「枕崎市防災会議」の委員に初めて女性を任命しました。そして、「枕崎市地域防災計画」の内容を見直し、防災に関する施策・方針の決定過程や防災現場における女性の参画の拡大、男女共同参画の視点を取り入れた防災体制の確立についての項目が加えられました。

■男女共同参画の視点に立った防災・復興への取組
 「男女共同参画の視点に立った防災・復興への取組」とは、災害から受ける影響は人それぞれ「違う」ことに配慮し、事前の備えや災害時の避難所運営等に取り組むことです。具体的には、男女それぞれの視点を取り入れるために、避難所運営の責任者に男女両方を配置し、女性用更衣室・授乳室、男女別の物干し場・トイレを設置することなどです。また、若い男性は力仕事、女性は食事の準備のように、性別や年齢によって役割を固定化しないことも重要です。

これからは、さまざまな視点を取り入れて地域での防災を考える場や訓練などで生かしていくましよう。

●枕崎市防災会議委員

	委員数	うち女性	女性比率
平成23年度	12名	0名	0%
平成24年度	12名	0名	0%
平成25年度	13名	1名	7.7%
平成26年度	13名	1名	7.7%
平成27年度	13名	1名	7.7%
平成32年度までに女性委員比率30%を目標(国の「第4次男女共同参画基本計画」)			

集落ぐるみで鳥獣を「寄せ付けない」取り組みをしましょう

知らず知らずのうちに農地や集落が、獣の餌場になっていませんか。秋の収穫後から冬場にかけての取り組みが重要です。被害防止のポイントは、餌場をなくして「寄せ付けない」ことです。

■農地や集落内の「獣の餌場」をなくしましょう

野山に餌が少なくなる冬季は、鳥獣を寄せ付けないチャンスです。次のことに留意し、冬季の餌場をなくすようにしましょう。

- 水田では、収穫後も電気柵等を適切に設置することで獣の農地への侵入を防止し、収穫後に伸びた稲の葉やレンゲを獣が食べられないようにしましょう。獣が



収穫残さを放置しないようにしましょう

餌場と認識すると、翌春の植付け後から被害が発生・拡大します。

- 畦畔や法面では、青草を出さないようにしましょう。特に法面での草刈りは9月頃までに終わらせましょう。10月以降の草刈りは、冬場に餌となる青草を出すこととなります。冬季は枯草の状態となるようにしてください。

■農地周辺や集落内の「獣の隠れ場所」をなくしましょう

耕作放棄地や茂み、ヤブ等の解消を行い、集落内のすみか、潜み場をなくしましょう。また、緩衝帯の設置、枝打ち等を行い、集落内の見通しをよくしましょう。

■問合せ 農政課農政係 TEL72-1111(内線316)



地域おこし協力隊 活動レポート

こしたこづ ひとっもんど!

こんにちは。地域おこし協力隊の前永です。きばらん海でメインステージMCをさせていただく予定だったのですが、台風のため中止となってしまい残念でした。来年は今年の方まで盛大に開催されることを期待したいと思います!



今月の報告は
前永俊輔 隊員



さて、7月30日(僕の誕生日でした)に金山校区で「川で遊ぼう」というイベントが行われ、桜山小学校の児童や保護者など約50名が参加しました。子どもたちは川で泳いだり、ダンマ(手長エビの一種だそうです)を網で捕まえたり、川魚を釣ったりし、終了時刻が迫ると「えー、もうー?」という声が聞こえるほど、終始楽しそうに活動していました。

最後は金山センターで山太郎ガニの味噌汁やカツオの腹皮、ガネ(さつまいも入りかき揚げ)やスイカまでいただき、心もお腹も大満足の活動でした!